

砂防 ぶくしま

第2号

平成4年6月1日



「ふるさとづくりに寄与する砂防」

南会津郡館岩村の前沢に施行された流路工は村が進めている、「曲り屋とホテルの里づくり」事業整備計画との調和を図った、「水と緑の砂防モデル事業」として整備したものです。

日本のチロルと呼ばれ、多くの観光客が訪れる本村に新たな名所を生み出すことになりました。

CONTENTS

平成4年度にあたっての抱負 県砂防課長	2
「土砂災害防止月間」に寄せて 三島町長	3
平成4年度砂防関係事業の概要	4
第3次急傾斜地崩壊対策事業五箇年計画の策定にむけて	6
わがまちの砂防事業	7
平成4年度砂防関係主要行事（予定）	8
『土砂災害防止』に関する作文「恐ろしい土砂災害」	9

みんなで防ごう土砂災害

— 6月1日から6月30日 —
土砂災害防止月間



平成4年度にあたっての抱負

福島県砂防課長 齋藤 喜士雄

この度の異動により、砂防課長を拝命いたしました齋藤喜士雄でございます。今回の砂防課勤務は、昭和53年3月以来であります。15年目にして通算3回目の勤務となり、伝統と責任の重さを痛切に感じております。当時の砂防課を振り返ってみますと、年間予算は約65億円余、施工箇所数は約120箇所程度であったと思われま。平成4年度の予算が約120億円余、施工箇所数が約220箇所ですので、この14年の間に、予算、施工箇所数とも当時の約2倍になっております。建設省をはじめとする関係機関及び諸先輩の皆様に対し、心から深く感謝と敬意を表する次第であります。

さて、福島県は県土の約70%が山地で占められており、地形が急峻で地質的に脆弱であるため、土石流、がけ崩れ、地すべり等の土砂災害が発生しやすい箇所が多く、更に、急速な都市化や地域開発の進展が、これらに輪をかける結果となっているところであります。これら災害発生危険箇所につきましては、年々適切に対策が講じられ、お陰様をもちまして広範囲にわたる土砂災害は減少の傾向にありますが、局地的な災害は、残念ながら各地で発生しております。

因に、平成元年8月の台風13号の土砂災害では、12名の尊い人命が失われ、2名の行方不明者を出しました。また、昨年は希にみる長雨と台風により、中通り北部を中心に土石流、地すべり、がけ崩れが発生し、公共施設や人家等に多大の被害を受けたことも記憶に新しいこととおもいます。

このような災害から地域の皆様の生命と財産を守るため、県の平成4年度の砂防事業につきましては、まず、第8次治水事業五箇年計画及び第2次急傾斜地崩壊対策事業五箇年計画に基づき、約120億円余を投じ、危険度の高い箇所から重点的にその整備を図ってまいります。

また、地域の皆様への防災知識の普及、警戒避難体制の確立等の推進を図り、多くの方々に土砂災害の恐ろしさや、災害防止の知識を深めて頂き、災害等緊急避難の際に役立つような方策を講じて参りたいと考えております。

安全で快適な活力ある県土づくりのため、自然環境と調和のとれる砂防、地域づくり街づくりに役立つ砂防を念頭に、更には土砂災害に対して迅速且つ的確な対応、対策を念頭に施設の整備を図ることが出来るよう、職員一丸となって、砂防事業の推進のため努力して参る所存でありますので、皆様方の一層のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



—「土砂災害防止月間」に寄せて— 砂防事業と私

三島町長 佐藤 長 雄

山村と豪雪地帯にすんでおる私共にとって、砂防事業は切っても切れない重要な事業であります。

河川、溪谷等の土砂災害を未然に防ぐ砂防事業の重要性は誰も認識をしておりますが、案外知られてないのが火山砂防事業であります。雲仙普賢岳の大噴火による土砂災害は新聞、テレビ等により報道されましたが、この災害復旧の基本は砂防事業であります。多くの活火山を有する本県にとっても重大な注目をしなければならない事業であると思います。

雪国である会津、特に特別豪雪地帯である奥会津に住む私達にとって急傾斜地崩壊対策事業並びに雪崩対策事業は生活に直結する緊要な事業であります。雪国での恐ろしい雪崩には、春先に起きる全層雪崩と全く思いも及ばない時と場所で発生する表層雪崩とがあります。今年も町営バスを運行致しておる道路で表層雪崩が発生しました。幸運にも、バスの直前で発生のため、雪崩に巻きこまれず災害にはなりませんでしたが、もう少しバスが早かったら多くの人命を失う大災害となるところでした。私共雪国に住んでいる者は、絶えずこうした危険を伴う地域に住んでいることを認識すると同時に、土石流対策の砂防事業はもとより、急傾斜事業、雪崩対策事業の充実を強く切望するものであります。

今世界的、国際的問題として急浮上してきたのが環境保護の問題であります。その根底となるのが水と緑であります。

建設省及び県におかれましては、新たな砂防事業として水と緑の砂防事業が予算化されました。これは国民的要望でもあります。県は二十一世紀の新しい生活圏—うつくしい福島を創造する県土造りを目指しておりますがその基本になるのは、先ず「災害のない安心して住める福島県」であると同時に「市町村」でなければならないと思います。その基幹となる事業が砂防事業であると言っても過言ではありません。私共市町村は勿論住民一人一人が砂防事業に対する認識を深めると同時に国まかせ、県まかせでなく自分達の住む町や村は自分達が守り育ててゆく自立自助の思想を確立したいものです。

平成4年度砂防関係事業の概要

第8次治水事業五箇年計画が策定され、平成4年度はその初年度にあたるため、本県においては、この五箇年計画の基本的方向を踏まえつつ、砂防事業の促進に努めます。また、第2次急傾斜地崩壊対策事業五箇年計画の最終年度として急傾斜地の崩壊による災害の発生を防止するため、急傾斜地崩壊対策事業を計画的に推進するとともに、第3次急傾斜地崩壊対策事業五箇年計画を策定することとし

ています。これらの事業は、各地域の持つ、自然特性・社会特性に応じ地元市町村の発意を生かし、各種プロジェクトとの整合性を図りながら、地域の魅力を引き出す砂防事業を積極的に取り組み、地域の活性化に資するとともに、ハードとソフトの施策を併せた総合的な土砂災害対策の推進を図ります。

なお、平成4年度の予算の概要及び新規箇所を紹介は下記のとおりです。

【予算の概要】

事業名	箇所数	金額(千円)
通常砂防事業	116	5,788,000
火山砂防事業	21	1,746,000
砂防環境整備事業	1	30,000
砂防設備修繕事業	4	21,200
地すべり対策事業	23	1,271,000
急傾斜地崩壊対策事業	45	1,610,000
雪崩対策事業	4	147,000
防衛施設庁補助事業	1	124,974
補助事業計	215	10,716,974
災害関連緊急事業		306,300
直轄砂防事業費負担金		531,565
県単事業等計		481,818
合計		12,036,657

【新規箇所の紹介】

それぞれの「市町村地域防災計画」に該当箇所は必ず組み入れて下さい。

(1) 砂防事業

次の箇所が平成4年度から着工することになりました。

関係市町村の方々におかれましては、本事業の推進のため御協力をお願いします。

通常砂防事業

溪流名	箇所	工種	溪流名	箇所	工種
布入川	福島市茂庭樋ノ口	ダム工	船窪沢	会津坂下町船窪	ダム工
産ヶ沢	桑折街産ヶ沢	流路工	田中沢	会津高田町田中	ダム工
牛沢川	国見町西大枝	流路工	獅子伏沢	昭和村獅子伏	ダム工
いでり沢	天栄村湯本	ダム工	石合沢	館岩村松戸原	ダム工
青柳沢	古殿町青柳	ダム工	北川	原町市社寺神	ダム工
十上沢	棚倉町祝部内	流路工	小高川	小高町北釘野	ダム工
さわ沢	棚倉町屋敷前	ダム工	仲ノ沢	川内村町分	ダム工
唐沢	塙町仲花	流路工	古田沢	いわき市田人町旅人	ダム工
胡桃沢	塙町胡桃下	ダム工	平石沢	いわき市内郷高野町平石	ダム工
西原沢	喜多方市岩月西原	ダム工			

火山砂防事業

溪流名	箇所	工種	溪流名	箇所	工種
小屋の沢	三島町袖山口	流路工	上滝沢	桧枝岐村駒ヶ岳	ダム工
坂瀬川	金山町坂瀬川	ダム工			

砂防設備修繕事業

砂防環境整備事業

溪流名	箇所	工種	溪流名	箇所	工種
深沢川	南郷村片見	堆砂除去	堀川	西郷村芝原	流路工

(2) 地すべり対策事業

入高野地区	伊達郡霊山町字入高野
-------	------------

当箇所は、昨年9月6日霊山町地内で発生した地すべりで、災害関連緊急地すべり対策事業により緊急的に実施したところです。本年度は隣接するブロックにおいても地すべりの危険性が高いため、通常事業として新規に補助事業に採択されたものです。

(3) 急傾斜地崩壊対策事業

次の箇所が平成4年度から新たに着手されることになりました。いずれの箇所も崩壊による危険度が高く、早急に対策が必要な所です。

百目木2号	岩代町百目木
倉ヶ作	川俣町字倉ヶ作
蟹沢	船引町大字要田
北町2号	三春町字北町
中町	三春町字中町

長光地2号	古殿町大字田口
京賀ノ内	石川町大字谷沢
十日市1号	大信村大字隈戸
榎戸2号	いわき市中之作
上代	いわき市江名

各市町村防災担当者のみなさんへのお願い

★土石流、地すべり、急傾斜の危険箇所があなたの町でいくつあるのかごぞんじですか？
これらの危険箇所に住んでいる方々の生命を守るためにも、「地域防災計画」にそれぞれの土石流危険溪流、地すべり危険箇所、急傾斜地崩壊危険区域を組み入れて、警戒避難体制づくりの強化を図って下さい。

安心・うるおい・まちづくり

—第3次急傾斜地崩壊対策事業五箇年計画の策定にむけて—

本年は、第3次の五箇年計画を策定する年です。

本県は、急峻な地形が多く地質も脆弱なため、急傾斜地崩壊危険箇所が多くがけ崩れによる災害を受けやすい状況にあります。

昨年台風18号や21号ではがけ崩れによる

人家の倒壊・半壊が数多く発生し、緊急に対策工事を実施したことは記憶に新しいところです。

これらの土砂災害を未然に防止するためには大幅な事業費の確保が必要です。

皆様の御理解と御協力をお願い致します。

現行五箇年計画と進捗状況

区 分	第1次計画 (S58～S62)	第2次計画 (S63～H4)	第3次計画 (H5～H9)
投資額	5,500億円	8,000億円	策定中
達成率	89.2%	84.5%	
整備率	13%⇒18%	18%⇒25%	25%⇒?

(第2次計画は平成4年度末の見込みである)

まだまだ低い
整備率

危険箇所と整備状況

(箇所)

区 分	危険箇所数	要対策箇所	整備量	整備率	H4実施箇所
全国	77,242	62,570	15,954	25%	2,512
本県	1,027	776	196	25%	45

(整備量・整備率は平成4年度末の目標値)

シリーズ

—— わがまちの砂防事業 ——



霊山町入高野地区の緊急地すべり工事について

霊山町役場 建設課長 高橋 嘉人

平成3年9月2日午後6時頃、当町入高野地区に住む村松市男さんから、自宅裏山で地すべりが起きている模様との連絡があり、関係機関へ連絡するとともに、現地調査を行ったところ、延長約50mにわたり段差50cmの地割れが生じていた。

長雨が降り続く中、福島建設事務所とともに対応策を講じていたところ、9月6日に自宅に隣接する蚕室が倒壊したため村松市男さん一家4名に対して避難勧告を出し、また9月19日の台風18号には隣家の村松トキ子さん一家5名にも避難勧告をした。

降り続く長雨の中、ボーリング調査・地形測量をはじめ、県単独工事による一部応急対

策工事に着手するなど、県及び福島建設事務所の素早く的確な対応のお陰で、11月13日には公共災害関連緊急砂防等事業の採択があり、本格的な工事が速やかに始まったため、村松さん達が最も望んでいた自宅で迎える正月も実現しました。

村松さんたちは、災害時に心配でいっぱいだったとき、沓沢建設事務所長さんの言葉に勇気づけられ、また安心して生活できるようになったことに大変喜んでいました。

私ども霊山町の町民の安全と県土の保全に日夜努力されている県関係者の皆様に改めて心より感謝いたします。

平成4年度砂防関係主要行事(予定)

- 6月 ◎土砂災害防止月間(6月1日～6月30日)
 - ◎がけ崩れ防災週間(6月1日～6月7日)
 - ◎土砂災害防止月間推進の集い全国大会(6月9日～6月10日…富山県)
 - ◎土砂災害防止に関する絵画・作文等コンクール入賞者表彰伝達(6月下旬)
 - ◎平成5年度砂防関係事業、建設省に対する第1次要求(6月下旬)
- 7月 ◎全国治水砂防協会東北地区協議会通常総会(7月23日、福島県当番)
- 10月 ◎平成5年度砂防関係事業全体計画認可事前協議(下旬…建設省)
- 11月 ◎県砂防治山連絡調整会議(下旬)
 - ◎県土砂災害対策連絡会議(下旬)
- 2月 ◎平成5年度砂防関係事業実施認可下協議(中旬…建設省)

(社)全国治水砂防協会 第54回通常総会開催される

平成4年5月15日(木)午前11時から東京都千代田区、日本都市センターホールで開催されました。

本県からは50市町村から総会に出席されました。

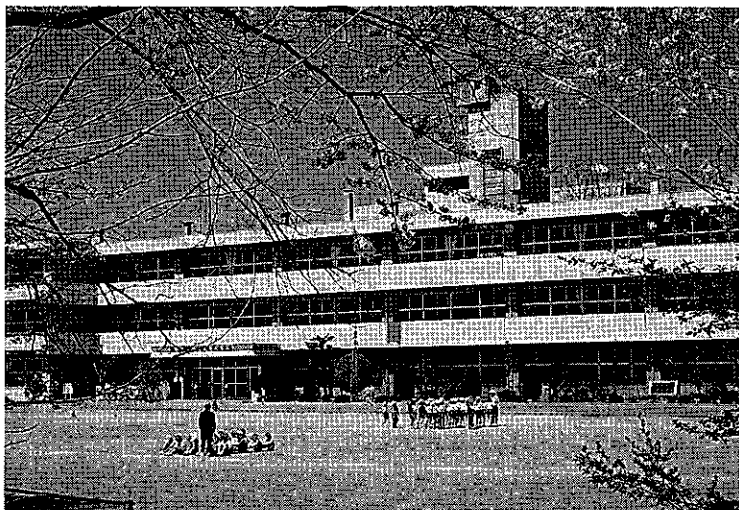
(社)全国治水砂防協会 東北地区協議会支部長会議開催される

平成4年5月14日(木)午前9時30分から東京都千代田区「麴町会館」に於て第1回支部長会議が開催され、平成4年度通常総会の開催について協議され、原案どおり承認されました。

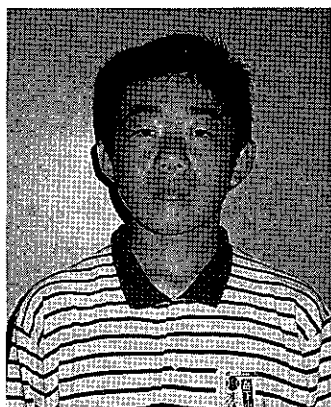
通常総会開催月日 平成4年7月23日から24日

〃 開催会場 郡山市磐梯熱海温泉「ホテル華の湯」

『土砂災害防止』に関する作文 建設省砂防部長賞に決まる



二本松市立岳下小学校全景



砂防部長賞に輝いた

岳下小学校6年

渡 邊 貴 廣 君

恐ろしい土砂災害

「大変だから、来てみる。」
台風が通り過ぎた朝、家の裏の方で、祖母が大声を出して、僕たちを呼んだ。急いで行ってみると、僕の家の上山が大きなカッターでけずったようにくずれていて、台所の水が流れる側溝が全然見えないほどでした。何とかしようと思っても、僕たちの力ではどうにもなりません。祖母も父も母も、

「困った。困った。」
と言うばかりで、その朝は、そのままにして勤めに出かけました。

次の朝、台所の水が側溝に行かず、庭にあふれ出るため、側溝の土砂をとりぞくこと

になりました。裏山に住んでいるおじさんが朝早くからかけつけてくれて、大きなスコップで土砂を上の方にあげていましたが、上げてはくずれ、上げてはくずれのくり返しで、苦勞していました。僕は、この日も何もできずに見ているだけでした。家族を代表して祖母がおじさんといっしょにスコップで何度も土を上げ始めました。上げるたびに半分ぐらい、ズズズズーと音をたててくずれ、なかなか仕事はかどりません。それでも、それしか側溝の土砂をとりぞく方法がなかったので、しばらくスコップで上げる作業を続けなんとか側溝だけは見えるようになりました。

そして、また崩れても大丈夫なように、厚い板で側溝にふたをして、土手には水色のシートをかぶせました。シートが飛ばないように上に大きな石のおもりを乗せました。ひとまず安心です。「おじさん、おばあさんありがとうございます。」と僕は心の中で思いました。勤めで朝も夕方も余裕のない父や母もきっと感謝しているに違いありません。

今年の台風は本当に恐ろしいものでした。僕の住む二本松の二伊滝では六角川が土砂でうまってしまったり、菊人形会場に向かう見晴台のところの坂でもものすごい土砂くずれがありました。国道4号線のバイパスも崩れてしまって一時不通になり、道路が大変混雑しました。近所の農家の人は、

「道路だけじゃなく作物までだめになった。」と、しんこくに話していました。

僕たちの地区は、その程度でしたが、夕方テレビを見ていると、霊山町という所では、養蚕小屋が倒壊してしまうほどの地滑りを放送していました。その家の人は、「寝ていて突然すごい音がしたので外に出てみると、小屋がペシャンコになっていた。母屋の方でなくてよかった。」と青ざめた顔で話していた。テレビを見ていた僕は、思わず、「母屋では寝るところもなくなってしまう。」と一人ごとを言っていました。

次の日の新聞を見ると、その記事が大きく出ていて、県から専門家を招き原因などを調査して、今後の対策を検討すると書かれてありました。町や県で救ってくれるのでは、この人もほっとしたかなと思いました。

新聞は毎日のように土砂崩れの報道ばかりでした。僕たちが募金をして送った雲仙普賢岳の噴火のことも毎日のように書かれてあり全国的に雨や火山、つまり自然災害に苦しめ

られていたようでした。

九州の方では、土砂災害で死亡した人もいました。台風や土砂崩れってこんなに恐ろしいものとは、全然知りませんでした。僕が新聞を見ながら、

「いろんな県で、土砂災害で死んじゃった人をあわせると、7人もいるんだよ。」

と言うと、母は、びっくりしたらしく

「えー、そんなにいるの、こわいね。土砂崩れって、交通事故よりこわいわ。」

と、言っていました。

人間ばかりでなく、近くの針道という所では、土砂に牛舎がつぶされて牛が十頭以上も死にました。運動公園が水と砂でうまり、体育の行事ができなくなったところもありました。こんなに大変なことが起こるとは、きっと、だれも予想しなかったことだと思います。

僕が1・2年のころ、砂場で山やトンネルを作り、水を流したり山を崩したりして遊んでいたことを思い出します。あの砂場のように、あっけなく崩れた山がどんなにたくさんあったことでしょうか。あの砂場に作った山の上に家や道路があったとしたらと考えると、ぞっとします。しかし、あの砂場のように、山やがけは、きつともろいものだったのかもしれない。

土砂災害を少しでもへらすために、僕たちにできることはないのでしょうか。

まず、自然を大切にし木を育てることです。ゴルフ場の建設などで山を切り開いてばかりいると、神様も人間をゆるさなくなるかもしれません。木は、空気を美しくするばかりでなく根っこで山くずれを防いでくれるはずです。次に、危険な所を早く見つけ、早く安全になるよう工事をすることです。何よりも山の気持ちをわかる事が大事なのだと思います。

学 校 紹 介

二本松市立岳下小学校

美しい霊峰『安達太良山』の麓に広がる地域、保護者のほとんどが兼業であり、社員が半数以上を占める。本校は今年(平成4年)創立120周年を迎え、363名の児童と21名の教職員が共に「進んで学び自分のよさを生かす子ども」を目指し、日々の活動に努力している。

本校の特色としては、昭和55年福島県学校図書館研究会を開催して以来、国語教育に力を入れ、日本標準教育賞・全国児童才能開発コンテスト・読書感想文全国コンクールなどで多くの授賞者を輩出している。

また、各種の運動に親と子が取り組み、岳下スポーツ少年団や岳下ランナーズの名で県内各地で活躍している。

平成4年度もよろしく申し上げます

◎砂防課

課長(技) 21-7490 (3610)
 齋藤 喜士雄

主幹(兼) (事) 21-7491 (3611)
 課長補佐
 (総務担当) 佐藤 孝男

主幹(兼) (技) 21-7491 (3612)
 課長補佐
 (業務担当) 齋藤 志郎

○砂防係 21-7492
 (3613・3614)

主任主査(兼)係長(技) 八巻 誠一

主査(技) 原 利弘

“(技) 渡辺 淳

“(技) 上田 悟

副主査(技) 鈴木 秀人

○傾斜地保全係 21-7493
 (3615・3616)

主任主査(兼)係長(技) 矢口 秀喜

主査(事) 佐藤 タケ子

“(技) 河内 耕一

“(技) 根本 正一

主任
 運転手 菊地 瑞穂

臨時事務
 補助員 吉田 智子

砂防一口メモ

「活火山」

平成3年2月1日、気象庁より「活火山」の選定基準が下記のように改定されました。

- ①過去およそ2,000年以内に噴火したもの。
- ②噴気活動が活発なもの。

従来わが国の活火山は77火山(北方領土に位置する10火山を含む)とされていましたが、今回の見直しで83火山となりました。なお本県の活火山は次の4火山です。

吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳(福島、栃木県)

★従来、活火山、死火山、休火山と区分していた呼び名は使われなくなり、「活火山」と「その他の火山」といういい方になりました。



平成7年開催

友よ ほんとうの空にとべ!

ふくしま国体

福島県砂防研修会

本会主催による砂防研修会が平成4年5月28日(木)福島市の「福島グリーンパレス」で、特別講師に建設省河川局砂防部砂防課長高橋哲雄氏、社団法人全国治水砂防協会常務理事で農学博士の松林正義氏を招き開催しました。

高橋課長には「砂防事業の課題」、松林常務には「地球環境と地域環境」と題して講演されました。

県内市町村の砂防担当職員と、県建設事務所職員120名が熱心に聴講しました。

土砂災害防止月間推進の集い全国大会

平成4年度の全国大会は平成4年6月9日午前10時から富山県民会館大ホールで開催された。10日は宇奈月谷砂防ダムを見学した。出席者は次のとおり。

桑折町長	安細隆清
矢祭町助役	緑川桂一郎
船引町 "	栢山富雄
只見町収入役	堀金高年
浪江町建設課長	紙谷邦男

東和町建設課長	佐久間和夫
会津若松市土木課主幹	佐瀬勲
県郡山建設事務所長	白石五郎
" 森林土木課主査	小池信夫
" " "	平野三代子
" 監理課 副主査	鈴木通
" 砂防課主幹兼補佐	佐藤孝男
" " 主査	佐藤タケ子
" " 副主査	鈴木秀人

編集後記

皆様の御協力により、砂防ふくしま第2号を発行することができました。6月は「土砂災害防止月間」として、県、市町村の職員の方々が、土砂災害の未然防止と住民の方々に対

するPR等多忙な毎日をお過ごしのことと思います。

今年度も慌ただしい中に2ヵ月が過ぎ新緑の美しい季節です。自然の美しさにも目をむけて、健康でご活躍されますよう祈ります。

発行／福島県砂防協会 ☎960 福島市杉妻町2-16 福島県土木部砂防課内
TEL 0245-(21)1111
印刷／陽光社印刷株式会社